

InterACTing with the Global Society

21世紀の地球社会と対話し行動する

— 東京外国語大学(TUFS)の国際戦略 —



東京外国語大学
国際学術戦略本部
(OFIAS-TUFS)

2005年12月
(2006年10月一部改訂)



目次

国際戦略のめざすもの
東京外国語大学のミッション

東京外国語大学の国際戦略

- 戦略1 大学の個性を生かした海外拠点の設置と整備
- 戦略2 国際コンソーシアムの形成
- 戦略3 「TUFSGlobal・コミュニティ」による海外事業の展開
- 戦略4 研究・教育活動の連携による国際協力・社会貢献の推進
- 戦略5 キャンパスと地球を結ぶ国際連携教育の推進
- 戦略6 多言語・多文化のユニバーサル・キャンパス21(UC21)の実現
- 戦略7 国際学術活動を支える多様な人材の育成

国際学術戦略本部(OFIAS－TUFSS)の設置
OFIAS－TUFSSの組織とマネジメントシステム
OFIAS－TUFSSのアドバイザー

活動計画



国際戦略のめざすもの



Tokyo University of Foreign Studies
(TUFS)



東京外国語大学のミッション

世界諸地域の言語・文化・社会に関する教育研究の拠点として、日本におけるこれらの領域の研究を主導し、地球社会化が進行する現代世界の共存共生に寄与する知的価値の創造と、構想力・実践力に富む人材の養成に努める。これらを通じて、文化摩擦・紛争・環境問題等の地球的課題の解決と国の安全に寄与する。

東京外国語大学（TUF S）のグランドデザイン

1 世界諸地域の言語・文化・社会に関する高等教育の拠点

- ① 世界諸地域の言語・文化・社会に関する豊かな教養とグローバルな視点を備えた人材を養成する
- ② 地球社会化時代の多様なニーズに応える高度専門職業人を養成する
- ③ 世界の言語文化と地球社会に関する先端的な専門研究者を養成する

2 世界諸地域の言語・文化・社会に関する学際的かつ先端的な研究拠点

- ① 世界諸地域の言語の個別研究を推進し、多言語対照研究を基礎とする言語理論の構築とその成果の言語教育への応用を図る
- ② 世界の諸文化・社会に関する個別研究を推進するとともに、複合的、領域横断的、総合的な研究領域を開拓する
- ③ アジアをはじめとする世界諸地域の言語・文化・社会に関する現地語資料を収集し、情報資源化する

3 日本語教育研究の拠点

- ① 日本語教育、日本語教育学、日本語教師養成の世界的な拠点を構築する
- ② 海外の日本語教育機関への総合的アドバイジング機能を充実する



東京外国語大学の国際戦略

東京外国語大学は、世界のほぼ全域にわたる言語、文化、社会の研究・教育を担うユニークな大学です。とりわけ、アジア・アフリカを始めとする諸地域における研究活動を展開しています。また、日本語教育研究を重点的に担う大学として、海外諸機関との連携を進めています。これらの実績に基づき、東京外国語大学では、国際学術戦略本部を設置し、次のような戦略を立て、長期的な視野から地球社会との対話を行い、地球社会のために行動します。このために、国際学術戦略本部(OFIAS-TUFS)を設置し、つぎの七つの国際戦略を推進します。

1. 大学の個性を生かした海外拠点の設置と整備
2. 国際コンソーシアムの形成
3. 「TUFSグローバル・コミュニティ」による海外事業の展開
4. 研究・教育活動の連携による国際協力・社会貢献の推進
5. キャンパスと地球を結ぶ国際連携教育の推進
6. 多言語・多文化のユニバーサル・キャンパス21(UC21)の実現
7. 国際学術活動を支える多様な人材の育成



戦略1

大学の個性を生かした 海外拠点の設置と整備

重点的に取り組む研究領域において、海外研究拠点を設置して研究を推進するとともに、海外研究拠点を研究者が広く共有する体制を整備する。

◇海外研究拠点における重点研究プロジェクトの推進

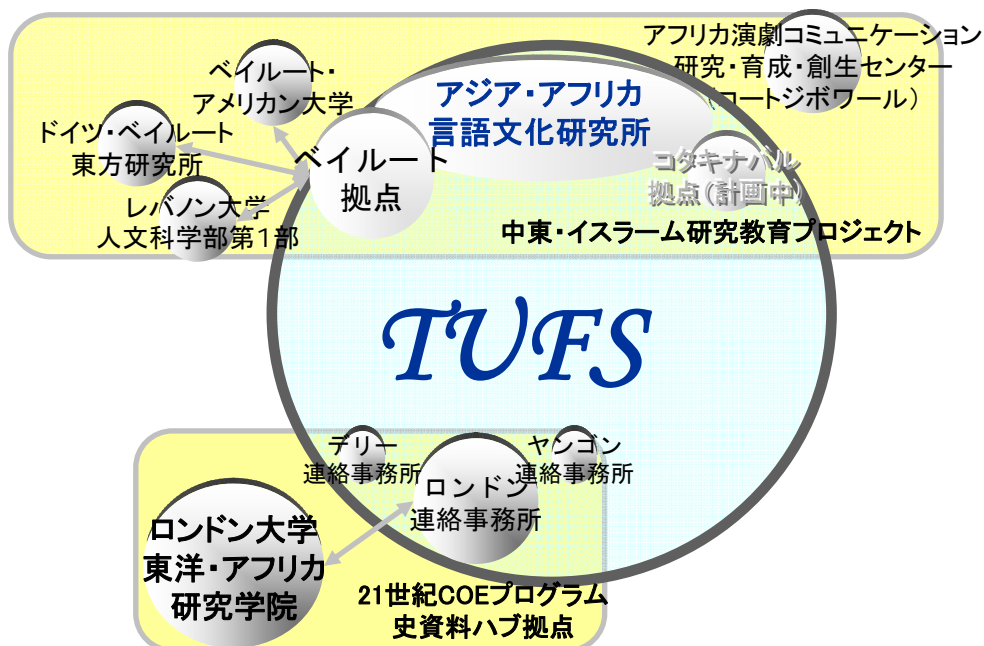
ベイルート等に設置した海外研究拠点を中軸に、重点的に取り組む中東・イスラーム研究教育プログラムに基づく研究を推進する。

◇研究者に開かれた海外研究拠点の運営

ベイルート等の海外研究拠点を、全国共同利用研究所であるアジア・アフリカ言語文化研究所の海外施設とし、国内外の研究者による共同利用を促進する。

◇ロンドン研究拠点における活動

21世紀COEプログラム史資料ハブ研究拠点(C-DATS)が設置したロンドン大学東洋・アフリカ研究学院内の研究拠点を継続的に活用し、共同研究、ワークショップ等を開催し、国際的な活動を展開しうる次世代研究者の養成を進める。



Tokyo University of Foreign Studies
(TUFS)



戦略2

国際コンソーシアムの形成

研究・教育分野を共有する海外諸機関と連携し、世界的な水準での研究・教育活動の一翼を担う。

◇アジア・アフリカ研究・教育コンソーシアム

アジア・アフリカ諸地域の言語、文化、社会に関する研究・教育を行う海外の諸機関との研究者の交流、共同研究を進め、世界の進展に寄与する。

◇日本語教育研究ネットワーク

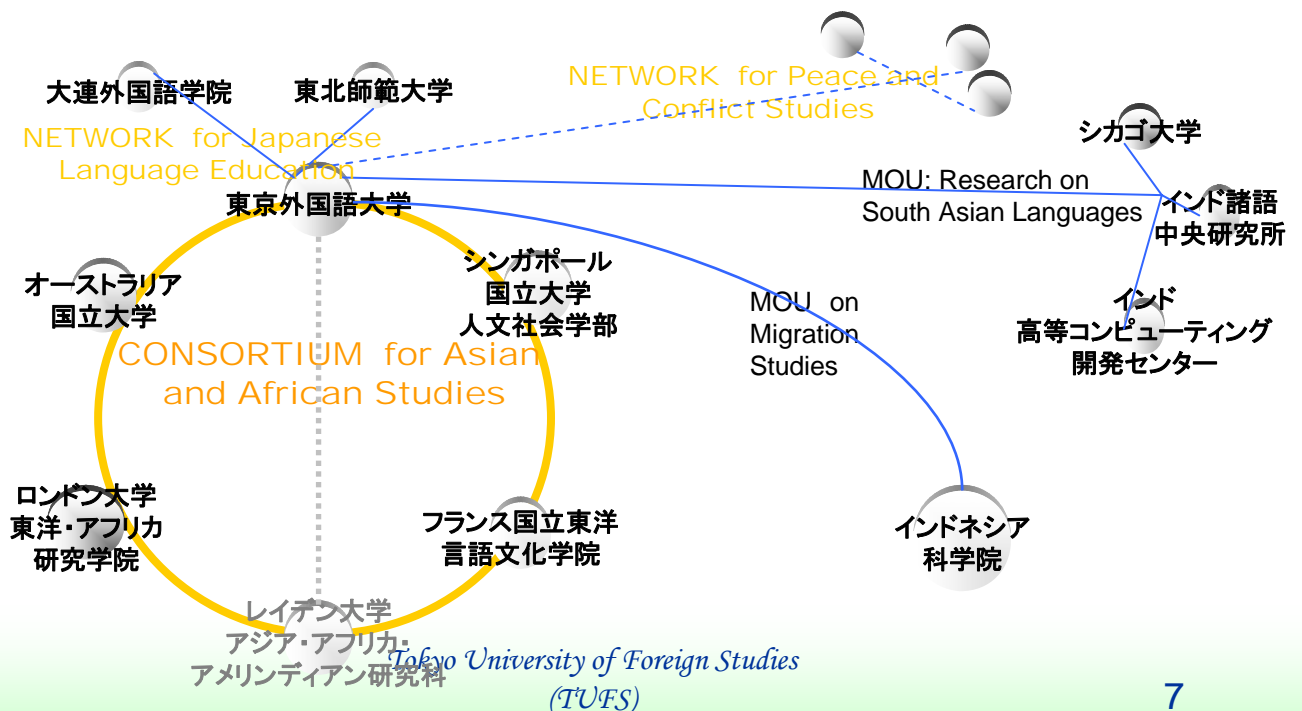
海外の日本語教育機関と連携し、日本語教育方法の開発を進めるとともに、アドバイジングを行う。

◇平和構築・紛争予防研究・教育ネットワーク

海外の諸機関、諸プログラムと連携し、世界的なレベルの専門家養成を行う。

◇史資料の共有基盤の形成

アジア・アフリカの歴史ならびに諸言語の資料に関する協定を締結した諸機関と、双方の構築した史資料を共有する体制を整え、それに基づく共同研究、連携教育を推進する。





戦略3

「TUFSGローバル・コミュニティ」による海外事業の展開

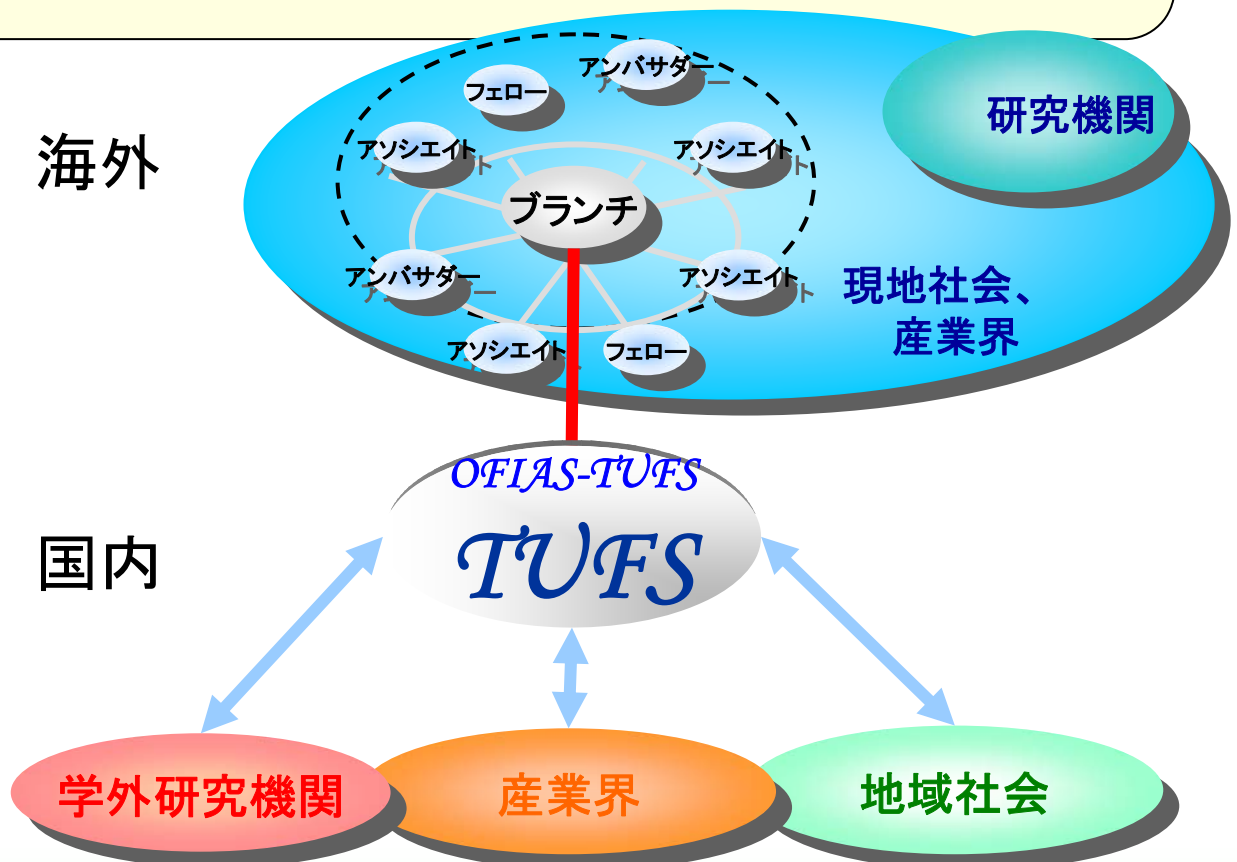
世界各地に広がる卒業生、修了生、留学生、外国人研究員・教員等をネットワーク化し、海外事業の展開の協力体制を築く。

◇世界的に展開されるTUFSCコミュニティ

世界に広がる本学卒業生、修了生を「TUFSC アソシエイツ」として組織し、その中で中心的な役割を果たす「TUFSCアンバサダー」の下で、世界各地に連絡事務所「TUFSCブランチ」を設け、研究・教育交流の拠点とする。

◇TUFSC研究フェローズ

これまで在籍した外国人研究者をネットワーク化し、TUFSCコミュニティの海外での研究活動を支える。





戦略4

研究・教育活動の連携による 国際協力・社会貢献の推進

世界諸地域に関する研究成果、研究実績を基盤とし、多言語対応の国際協力、国際貢献を推進する。

◇文字文化財復興支援事業の推進

史資料ハブ拠点の活動を拡大し、アフガニスタン、インドネシア等における文字文化財復興支援事業を推進する。

◇地域社会の多言語・多文化共生への支援

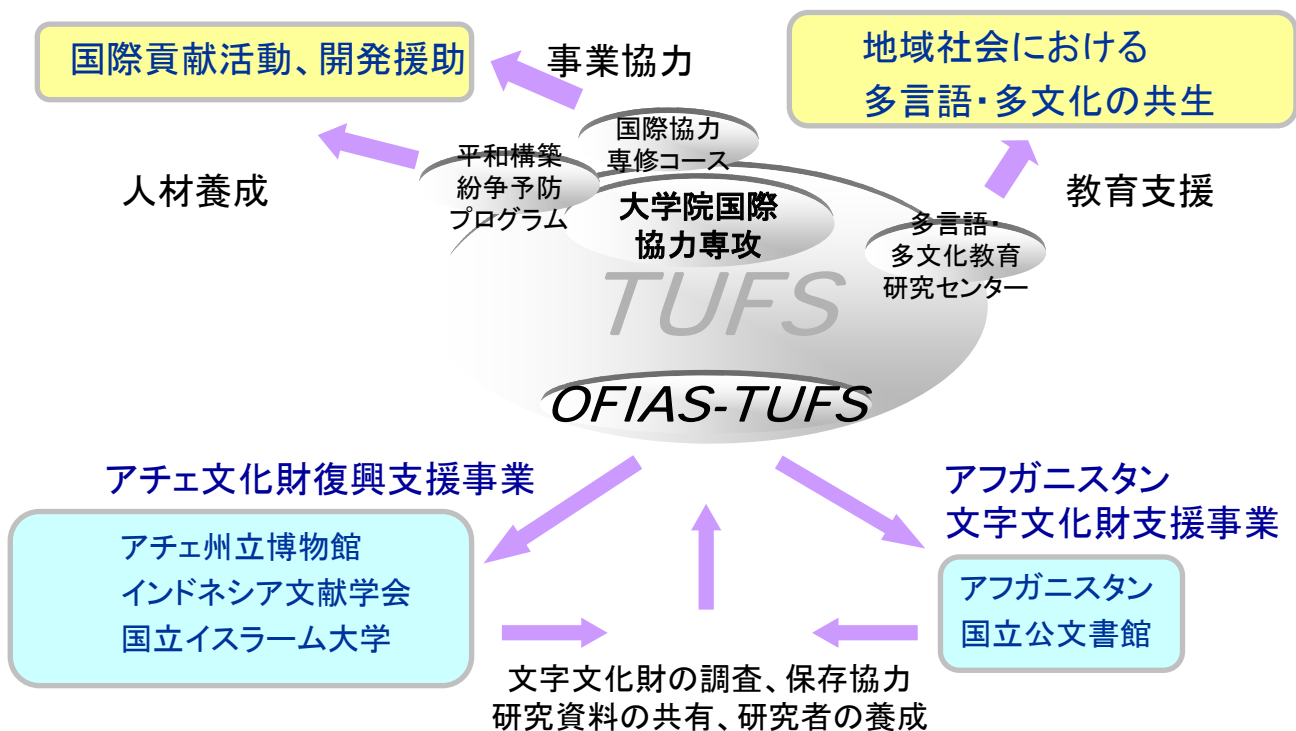
多言語使用、多文化理解を背景とした学校教育、生活情報提供等への支援を通じて、日本の地域社会の国際化対応に貢献する。

◇平和構築・紛争予防プログラムの強化

大学院におけるプログラムを通じて世界諸地域において平和と社会貢献に寄与する人材を養成する。

◇国際協力インターンシップ

国際学術戦略本部事業におけるインターンシップを関連カリキュラムの中に位置づけ、国際学術業務に従事する専門家を養成する。





戦略5

キャンパスと地球を結ぶ 国際連携教育の推進

地球社会化時代における多様なニーズに応える人材を養成するため、学生の海外における教育・研修を推進する一方、世界諸地域の留学生が共に学ぶ教育環境を整備する。

◇ 協定にもとづく交流活動の充実

協定校・提携校を拡大しつつ、双方向的な交流活動を推進する。

◇ 海外インターンシップの拡充

海外インターンシップ制度を多角化し、海外における実践的な経験を身につける機会を提供する。

◇ 開講科目の多言語化

英語及び各専攻語による開講科目を充実させ、多言語・多文化接触を日常化させる。

◇ 海外留学の制度面での支援

セメスター制を整備する一方、教育の一部分を海外機関で受講しうる体制を整備する。

◇ e-learningを通じた日本語教育

海外への質の高い日本語教育の普及を図るとともに、インターンシップによる派遣を通じて教員を養成する。

◇ インターネットを通じた同時授業

インターネットを通じた同時授業を実施し、海外協定機関との双方向的な教育交流を推進する。

◇ 多言語・多文化教育コースの設置

日本国内の国際化に対応した、多言語・多文化教育に携わる人材を育成するためのコースを設置する。

◇ 留学生用プログラムの充実

留学生の学習ニーズに答えるために、英語、日本語などによる留学生向けのプログラムを開講する。





戦略6

多言語・多文化の ユニバーサル・キャンパス21(UC21)

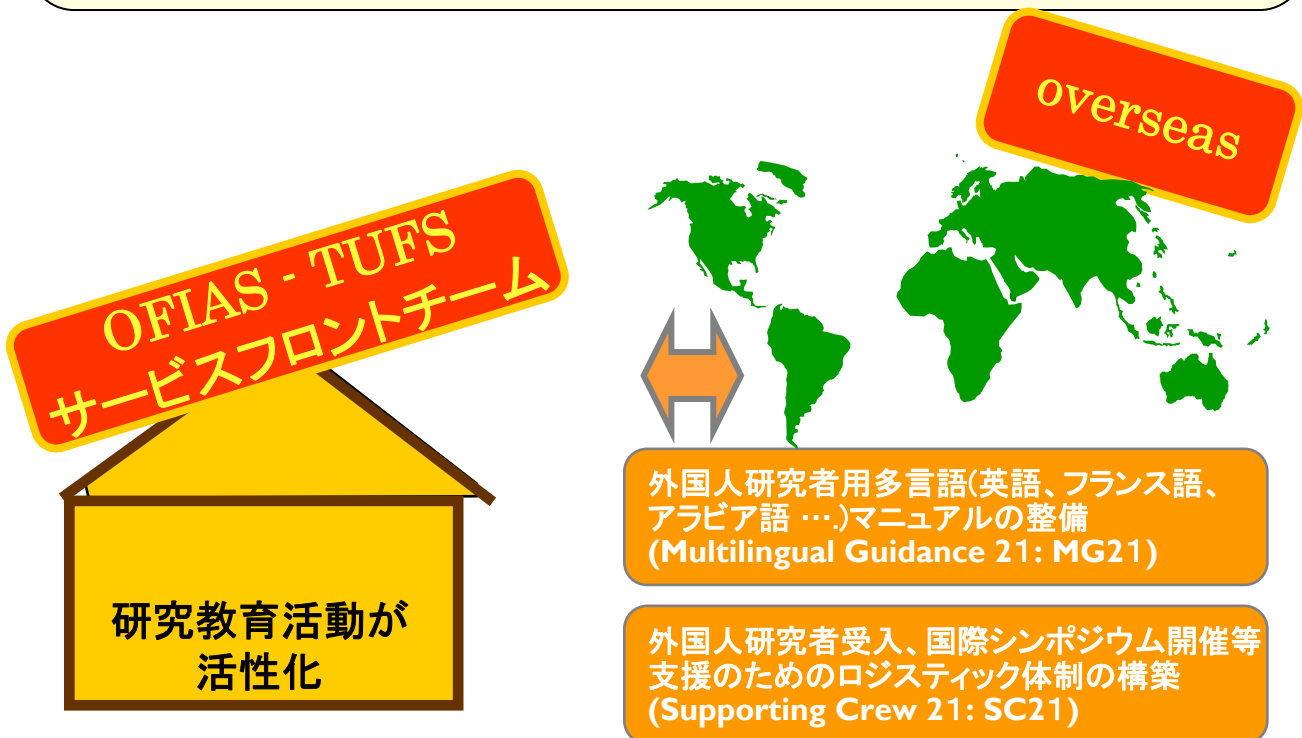
多言語・多文化共生の現状をさらに推し進め、地球社会を体現するユニバーサル・キャンパスを実現する。

◇多言語による研究者支援

外国人研究者用の多言語(英語、フランス語、アラビア語 など)マニュアルを整備し、研究活動を円滑に進めると共に、研究支援要員による多言語対応の滞在支援活動を展開する。

◇国際研究活動支援体制の構築

国際ビジネス経験者ならびにアカデミック・オフィサーを国際学術戦略本部に配置し、外国人研究者受入、国際研究集会開催、現地拠点運営などに関する業務実施体制を整え、研究者の負担を軽減しつつ、国際的な研究事業を活性化する。





戦略7

国際学術活動を支える 多様な人材の育成

外部人材の採用、実地研修などを通じて、PD、学生インターン、事務職員等、様々なレベルの人材の能力を開発し、国際学術業務に携わる多様な人材を育成する。

◇国際展開マネージャー

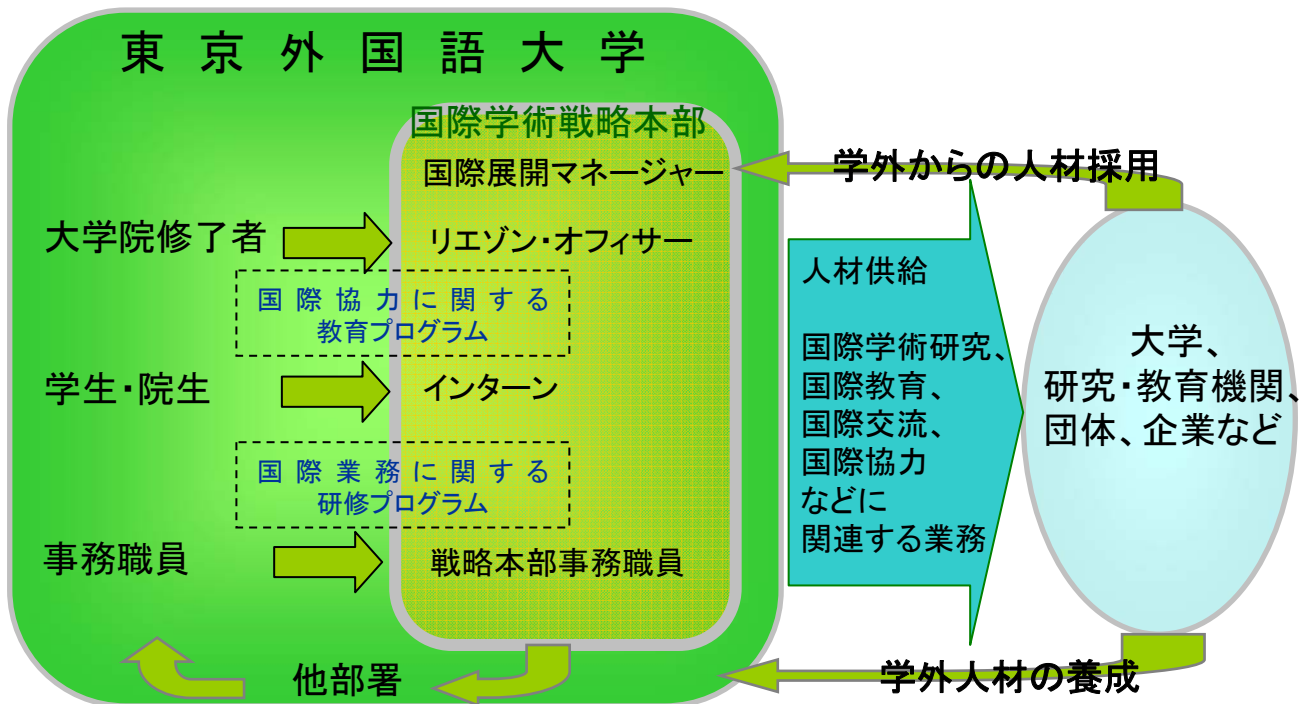
高度な実務経験と専門性を有する外部人材を国際展開マネージャーとして採用し、国際関係業務の円滑な遂行と体制の整備を図る。

◇リエゾン・オフィサー

高度な言語運用能力と豊富な世界諸地域の実地的知識を有する卒業生・修了生を、国際展開マネージャーの下でインターンとして実地訓練を施し、国内外の研究・教育機関、公共団体、国際機関、NGO等で必要とされる高度専門職業人として養成する。

◇国際性対応力に焦点をあてたスタッフ・デベロップメント

学内外の事務職員を対象とした研修プログラムを実施するとともに、協定機関及び海外拠点等での実地訓練を行い、多面的な能力を開発する。



[大学全体の国際化]

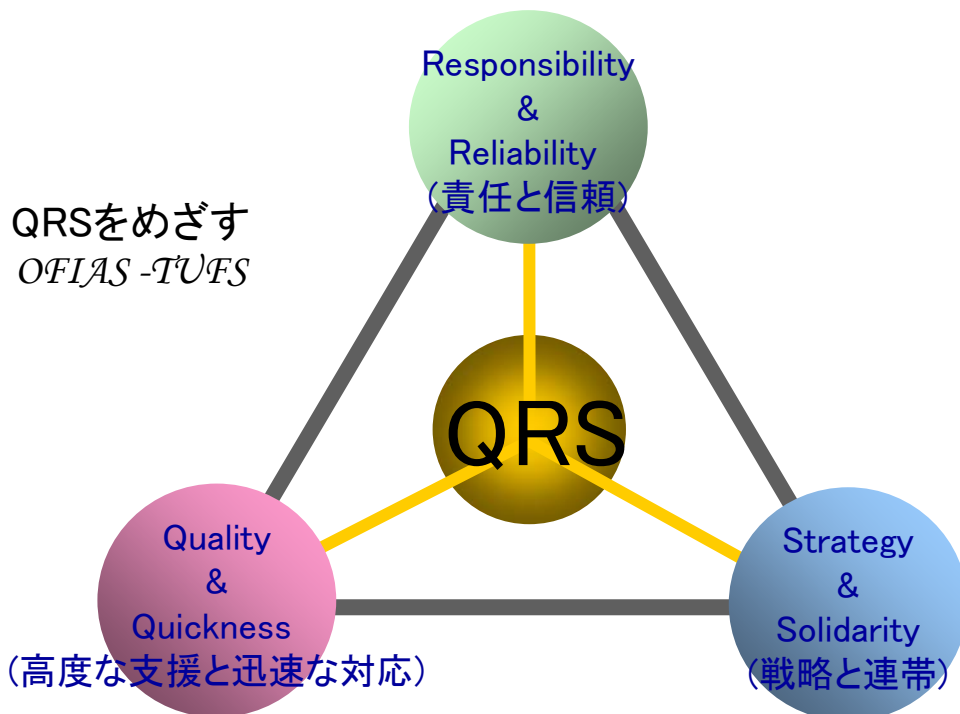
Tokyo University of Foreign Studies
(TUFS)



国際学術戦略本部 (OFIAS-TUFS)の設置

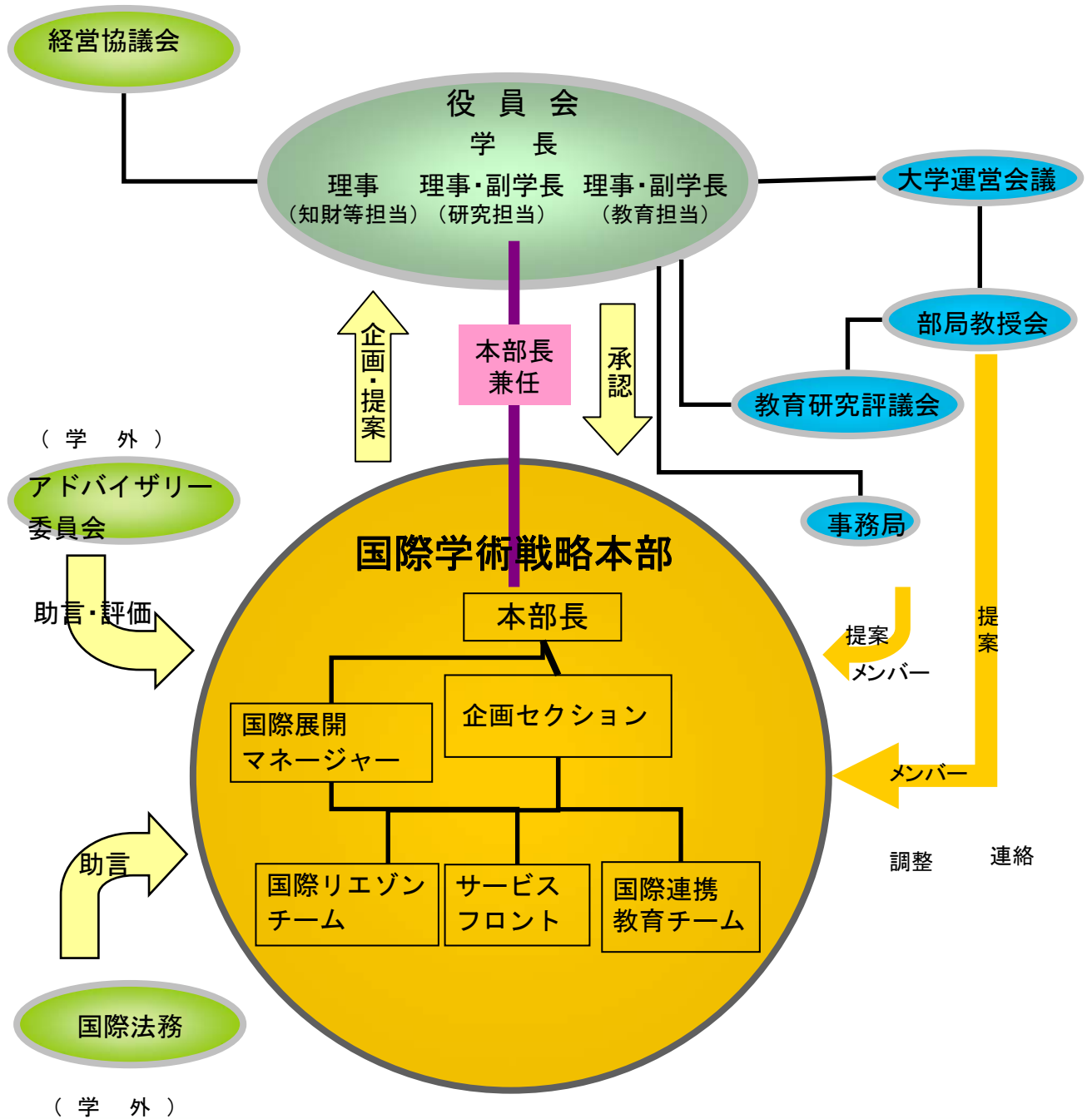
国際戦略実現のために設置された東京外国語大学国際学術戦略本部 (OFIAS-TUFS)は、次のような特徴を持つ。

- ◇ 本部長＝理事による役員会直属組織
- ◇ 全学的視点からの運営
- ◇ 教職員一体となったクロスファンクションチーム
- ◇ 国際展開事業経験の豊かな国際展開マネージャーの登用
- ◇ 多言語による研究活動を支援するアカデミック・オフィサー
- ◇ 外部有識者、本学経営協議会学外委員によるアドバイザリー制度





OFIAS-TUFSの組織と マネジメントシステム





OFIAS-TUFSのアドバイザー

学外有識者からなるアドバイザー委員会を置き、研究・教育の国際的な展開について、グローバルな視点から助言と評価を求める。

AKASHI, Yasushi (明石 康)

スリランカ平和構築及び復旧復興担当日本政府代表、
本学経営協議会委員

FUJITA, Hidenori (藤田 英典)

国際基督教大学大学院教育学研究科教授
本学経営協議会委員

HAYMAN, Lesley (ヘイマン、レスリー)

ブリティッシュ・カウンシル駐日副代表、
在日英国大使館教育アタッシェ

INOUE, Masayuki (井上 正幸)

在バングラデシュ日本国特命全権大使

KOMANO, Kinichi (駒野 欽一)

在エチオピア日本国特命全権大使

ONO, Takushi (大野 拓司)

朝日新聞社企画報道部、
中央大学総合政策学部客員講師

TAMBO, Norihito (丹保 憲仁)

放送大学長

(ABC順)



活動計画

実施計画の実行

1年目の活動のレビュー(自己評価)

外部からの評価

アドバイザリーコミッティー会議の開催

ニュースレターの発行

活動の総括
次年度計画への反映
一般への広報

